

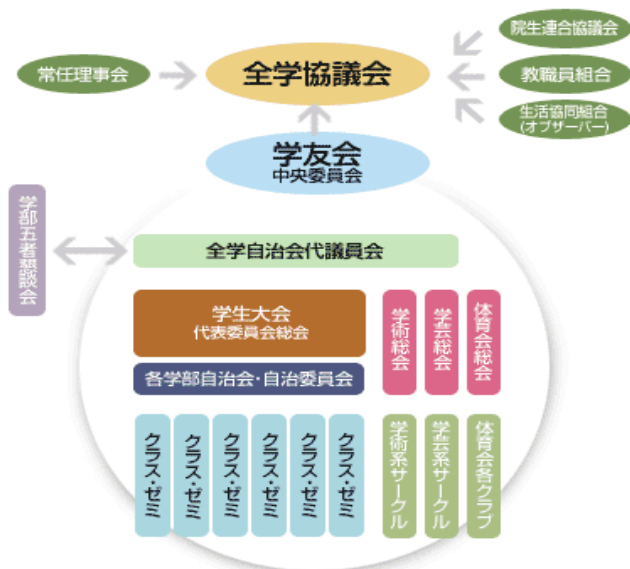
大学評価研究会 2009年12月22日 報告資料（浅野 立命館大学）  
「教学改革に関する組織評価の変遷 ―職員からみた教職協働の現状―」

はじめに

立命館大学における組織評価の源流

□「全学協議会」(1948(昭和23)年)

学生・院生を含む大学を構成する全ての構成員の参加と協議によって、大学創りを議論する組織。4年を1サイクルとし、教学課題の到達点を確認し、次期4年間の教学方針と学費額を確認文書の形で決定する。文書は理事会と学友会、院生連合協議会、教職員組合が署名し、理事会が執行責任を持つ。



1. 先進的教育実践支援制度（2002～2004年度）

教員個人やグループの先進的・優れた教育実践を予算面（年間4,000万円）で支援する取り組みとして実施。特に優れた取り組みを行なった教員には表彰（先進的教育実践賞）を行なった。支援対象プログラムには教職協働の取り組みもあった。

□残された課題

- ①取組によって得られた成果はその取組内に留まり、学部・研究科などの組織的成果として広がらなかった
- ②個別の取組と学部の育成する学生像や教育目標との関係が不明確であった（そもそもそのような認識に基づいて行われていなかった）
- ③成果の検証をおこなうための客観指標が不足していた
- ④多くの取組が、教員個人やグループに任せられ、組織的取組（支援）として位置づけられなかった

## 2. 教育力強化に向けた評価・検証指標の設定（2005～2007年度）

それまでの全学協議会の議論が、目的と目標をやや曖昧にしたまま、方法論の議論に力点が置かれ過ぎていたことを反省、ひとつ一つの行動計画と目的・目標の関係を明確にし、教育目標の達成とその達成状況を客観化する「評価・検証指標」を設定。また、教育力強化の取組は、個人的取組ではなく組織的取組とし、取組の目標を事前に設定、その到達度を客観的に検証する評価・検証指標を設定したものに教育力強化予算（年間4億円）を措置した。

### □実施プロセス

- ①各学部長に全学協議会確認事項の実践に向けた基本文書の作成を要請
- ②学部教育目標、育成する学生像、学士課程教育全体を通じた「評価・検証指標」の設定（入口：入試から中身：教学内容、出口：進路までを見通した取組）を要請
- ③目的・目標、目標を達成するための「手立て」、目標の達成度を確認する「検証指標」、「検証指標」の達成状況を客観化する「数値目標」と「達成年度」をマトリックス化（入試パンフレットや学部改革文書に示された取組も含めて整理）  
→学部長がリーダーシップを発揮して、各学部の「教育力強化」に向けた取組を組織的に位置づけた

目的	目標	行動計画	検証指標	数値目標	達成年次	予算要求	
						要求金額	積算根拠

- ④教学部として、学部独自の課題と全学共通の課題を切り分けて整理
- ⑤目的・目標から評価・検証指標まで一貫して示された取組に対して予算措置を行う
- ⑥設定された目標・行動計画の学内開示、全学協議会での議論

### □残された課題

- ①個別プログラム（項目別）ごとに予算査定したこともあり、学部は予算査定された取組についてしか評価・検証指標を設定しない場合が多かった。このため、学士課程教育全体の自己点検・評価の取組みにならなかった
- ②第三者評価機関による認証評価項目との関わりが意識されておらず、相対的に別の取組みとなってしまった→結果的に何度も同じ作業を行い、「評価疲れ」を生んだ
- ③定量的な評価指標にこだわる余り、偏った評価指標を生んでしまった→学士課程教育全体を包括する体系的な評価の枠組みが必要

## 3. 教育改革総合指標・行動計画(TERI)（2008年度～）

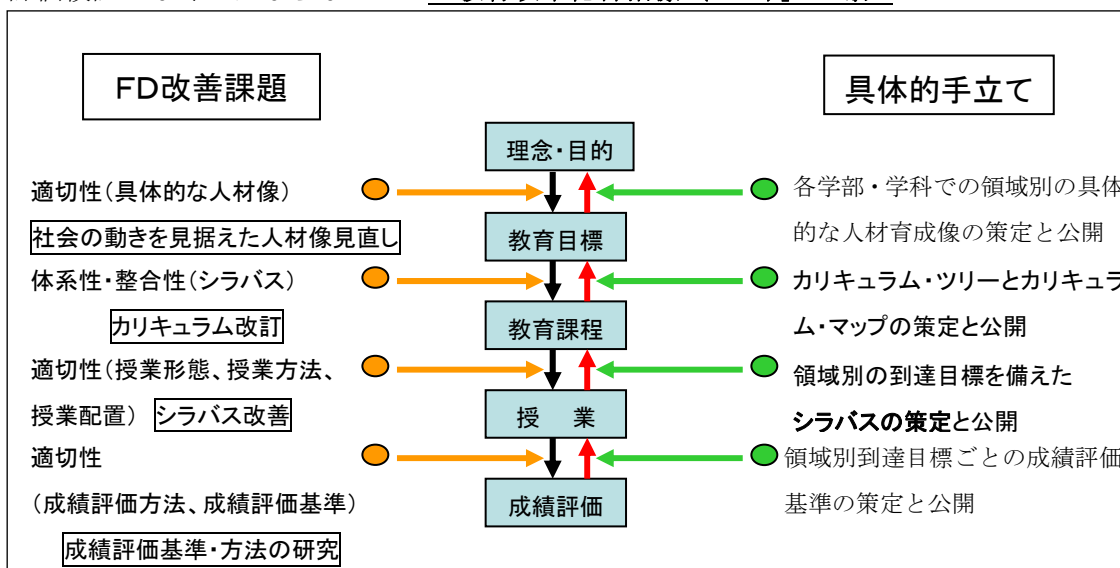
### (1) FD活動の定義（2006年）

本学の理念・目的に照らし、各学部・学科・研究科が掲げる教育目標を実現するために、カリキュラムや個々の授業について、その内容、配置、方法、教材、評価等の適切性に関

して、教員が職員と協働し、学生の参画を得て組織的な研究・研修を推進するとともに、それらの取り組みの妥当性、有効性について継続的に検証をおこない、さらなる改善に生かしていく体制を保証する。本学では、この体制に含まれるすべての活動をFDとする

## (2) FDの効果検証 (=教育の質保証)

全ての教育改革活動の成果ならびにそれを実施する組織のマネジメント能力を包括的に評価検証しなくてはならない → 「教育改革総合指標 (TERI)」の導入



出典：沖裕貴 (立命館大学 教育開発推進機構)「シラバス編集方針に関する執行部ガイダンス」に加筆

## (3) 教育改革総合指標・行動計画 (TERI: Total Educational Reform Indicator)

アドレス: [https://www.asp-user.jp/ritsumei-dg/system/u601\\_list\\_terimokuji.asp?logsw=1](https://www.asp-user.jp/ritsumei-dg/system/u601_list_terimokuji.asp?logsw=1)

立命館大学 自己点検評価データベース(大学) [戻る](#) RITSUMEIKAN

◆TERI目次◆ [キーワード検索](#)

理念・目的	授業の成績評価
<a href="#">理念・目的等</a>	<a href="#">成績評価法</a>
<a href="#">理念・目的等の検証</a>	<a href="#">国内外との教育研究交流</a>
教育内容・方法	<a href="#">国内外との教育研究交流</a>
<a href="#">学部・学科等の教育課程</a>	学生の受け入れ
<a href="#">大学の特色に応じた教養教育プログラムの開発・実施</a>	<a href="#">学生募集方法、入学者選抜方法</a>
<a href="#">カリキュラムにおける高・大の接続</a>	<a href="#">入学者受け入れ方針等</a>
<a href="#">カリキュラムと国家試験</a>	<a href="#">アドミッションズ・オフィス入試</a>
<a href="#">医・歯・薬学系のカリキュラムにおける臨床実習</a>	<a href="#">夜間学部への社会人の受け入れ</a>
<a href="#">インターンシップ、ボランティア</a>	<a href="#">科目毎履修生・聴講生等</a>
<a href="#">単位互換、単位認定等</a>	<a href="#">外国人留学生の受け入れ</a>
<a href="#">開設授業科目における専・兼比率等</a>	<a href="#">入学者選抜における高・大の連携</a>
<a href="#">社会人学生、外国人留学生等への教育上の配慮</a>	<a href="#">定員管理</a>
<a href="#">学生・院生による教育研究支援</a>	<a href="#">編入学者、退学者</a>
<a href="#">教育効果の測定</a>	学生生活支援
<a href="#">履修指導</a>	<a href="#">生活相談等</a>
<a href="#">教育改革への組織的な取り組み</a>	<a href="#">就職指導等</a>
<a href="#">3年卒業の特例</a>	立命館大学独自項目
授業設計	<a href="#">教職教育</a>
<a href="#">授業形態と授業方法の関係</a>	<a href="#">子償</a>
<a href="#">授業形態と単位の関係</a>	<a href="#">子償</a>

[メニューへ戻る](#)

Copyright (C) 2008 Japan Management Association. All rights reserved.

アドレス [https://www.asp-user.jp/ritsumeidg/system/u612\\_list\\_terigakubu04.asp?logsw=1&gakubu=400](https://www.asp-user.jp/ritsumeidg/system/u612_list_terigakubu04.asp?logsw=1&gakubu=400)

**立命館大学 自己点検評価データベース(大学)** [戻る](#) **RITSUMEIKAN**

◆TERI 学部別閲覧

大項目(Process): 教育内容・方法(大学独自) [TERI目次に戻る](#) [進捗一覧に戻る](#) [一括印刷](#) [印刷時の注意](#)

学部: 産業社会学部  [編集]リンクを表示する

CODE	中項目 (Subprocess)	評価項目 (Key Process Area)	達成目標 (Key Practices)	行動 計画	次回の全学自己点検評価 (2010年)までの行動目標と その評価指標・評価基準	年度: <span>2007年</span>	
						質的評価(Maturity Level)	2007年度到達点
130201	カリキュラムにおける高・大の接続	学生が後期中等教育から高等教育へ円滑に移行するため必要な導入教育の実施状況(必須)	リメディアル教育、入学前教育、導入期教育(基礎演習等を含む)を充実する	<a href="#">詳細</a>		3	私立立命館大学においては学力における優秀層を確保するとともに、本学で学び成長することを熱望し、4年間の大学生活や学生生活の中で核となるような学生を数多く確保することが重要である。とわが学部にとっての教育目標は一定の学力が担保された個別の学部で学ぶ学生ベネショの高い生徒を確保していくことが重要である。産業社会学部では、これまで隣接校の授業のなかで後期に学部教員が慶祥校で授業を実施し、これを受けて生徒が論文作成に取組んでいる。2006年度で121名が受講した。2007年度は新たに宇治校生徒の学部講義への受け入れを検討している。
130301	カリキュラムと国家試験	国家試験につながるカリキュラムを持つ学部・学科における、カリキュラム編成の適切性(必須)	-	<a href="#">詳細</a>		3	後日設定 1 2

#### (4) 現段階の到達点

- ① 学士課程教育全体を総合的に捉える指標が設定された
- ② 結果指標に加えて、プロセス指標が導入された
- ③ 各種報告書が統一され事務負担が軽減した
- ④ 取り組み自体が、FD活動となった
- ⑤ 外部認証評価と関連づけることで、客観性が担保された
- ⑥ IR (Institutional Research) と連動した取り組みとなった

以上